

司式 熊田雄二牧師
奏楽 五十嵐美代枝姉妹

前 奏
開 会 招 詞

* 賛 美 歌 2 : 1 主のみいつとみ栄えとを 声の限りたたえて

またき愛と低き心 御座にそなえひれふす アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 (詩編51編)

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。

わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないでおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。

(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 72 : 1 心を高くあげよ

心を高くあげよ 主の御声に従い ただ主のみを見上げて

心を高くあげよ アーメン

公 同 の 祈 禱 祈禱書6 ニケア信条 (三位一体主日・その他適切な主日)

我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を信ず。

我らは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきのみ父より生まれ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊によって処女マリアより受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わることがない。

我らは、生命の与え主にして、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子とともに礼拝され、あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる公同の使徒的教会を信ず。我らは、罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは、死人のよみがえりと、来たるべき世の命とを待ち望む。アーメン。

献 金 (黒)教会活動 (赤)ふじみ野社会福祉協議会 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

洗 礼 式

聖 書 朗 読 マルコ福音書 4章33 - 34節 (新約聖書68頁)

説 教・祈 禱 礼拝は生命⑧「説教の結ぶ実」 熊田雄二牧師

* 賛 美 歌 28 ①主よ命の言葉を 与えたまえ我が身に 我は求む

ひたすら主よりたもう御糧を ②ガリラヤにて御糧を分け給いし我が主よ

今も活ける言葉を与え給え豊かに アーメン

* 主 の 祈 り 祈禱書1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあがめさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 66世をこぞりて

世をこぞりてほめたたえよ 御栄え尽きせぬ あまつ神を アーメン

* 祝 禱
後 奏 (黙禱)

報 告

門脇献一長老

I 人はパンのみにて生きるにあらず

1 「人はパンだけで生きるのではなく、人は主の口から出るすべての言葉によって生きる。」（申命記8：3）

戦争は、パンのみにて生きることから始まるものです。「生めよ増えよ地に満ちよ」の文化命令は、天地創造の始め、祝福でありましたが、墮落後は、人類の罪によって呪いに変った一面を持ちます。人口が増えていくと、食べるために耕す土地が必要になり、領土を求めて争いあうのです。天地創造の神は、これを放っておかず、救いを与えて新しい命と世界を約束してくださいました。救い主キリストを証しする聖書は、死んでも新たに生きる命の書として与えられています。

そこで毎日、「朝いちばんの聖書と祈り」によって、クリスチャンはパンを食べる前に、まず神の言葉を食べます。これは一人一人が神の言葉を食べて生きる生活です。

聖書通読の良さは、とにかく全て読むことにあります。旧約聖書の厳しい律法も、とにかく全て読めば、神の恐ろしさには迫力があります。これが罪人には大事なのです。ところが、聖書通読は、工夫せずとにかく読むだけだと、旧約聖書の読む分量は新約聖書の3～4倍あります。時間も3～4倍かかります。

旧約聖書と新約聖書のどちらが大事かという、言葉なる神キリストの言葉が直接ある新約聖書です。旧約聖書はキリストを準備する書物です。そこで、新約聖書に引用されている旧約聖書が、特に大事な箇所です。

2 考えてみれば、聖書通読ができるようになったのは、印刷技術の発明によります。信徒一人一人が聖書を持つことが出来るようになったのです。プロテスタント宗教改革の「聖書のみ」というスローガンは、聖書がたくさん印刷されたので可能になったとも言えます。

長い間、聖書は聴くものでした。そこで、中世カトリック教会のステンドグラスは、聖書を教える視覚教材であったことを知ります。観察すると、高額なステンドグラスにするだけの重要な聖書箇所だと分かります。

まず、キリストの誕生と生涯、十字架と復活、昇天と最後の審判が描かれます。それが、クリスマス、イースター、ペンテコステという教会カレンダーの中心になります。旧約聖書は、キリストの出来事と関係の深い場面が中心になります。アダム、ノア、アブラハム、モーセ、ダビデなど、契約の代表者にまつわる物語の重要な場面です。生贄の儀式を描くステンドグラスは、アブラハムが一人子イサクを献げようとする場面で十分でしょう。生贄の儀式は、キリストの十字架によって目的を達成し廃止されました。

II 説教は献立のバランスがとれていることが大事

1 牧師は、信徒が神の言葉を食べて生きることを念頭に説教を作ります。献立は、キリストの羊や子羊が、魂の骨と肉がしっかり成長するような栄養バランスが必要です。よく言う「教育的伝道」は、教理体系と救済史体系による聖書真理の体系が骨格と肉付きのバランスとなります。そこで、主の日の礼拝を中心に全ての集会でバランスをとるよう心がけています。

2 朝拝説教は、講解説教がメインです。これがメインディッシュです。長老は、牧師が個人的に好きな書物に偏らないように見守る必要があります。通常は、福音書を中心に手紙や旧約のおもだった書物を基本にすれば、羊の栄養バランスは偏らないでしょう。『黙示録』が好きだからと、旧新約の黙示文学に偏りがちな牧師は、ちょっと要注意です。異端が起こる典型的なパターンの一つだからです。

3 何年かに一度、朝拝で教理説教を行ないます。基本的な教えは、礼拝で唱える「使徒信条」・「十戒」・「主の祈り」であり、これで信仰と生活のバランスがとれます。これが福音と律法という教理システムです。今行なっている「礼拝指針」も、何年かに一度を繰り返すことが多いものです。教会でいちばん大切なことは礼拝ですから当然です。礼拝委員会が毎年一度、礼拝の心得をアピールする使命とも関係します。

4 教会全体が成長する栄養バランスを考える上で、一年単位で計画性があれば大きく偏ることはありません。そのために、スケジュール概観を作っています。牧師は、「何を食べさせようか」と思い煩うと、とりあえずカップラーメンでもとなつて、栄養が片寄ってしまい、教会成長のバランスが崩れてしまいます。

神学校や研修所が教会のためになっているか、神学校献金や研修所賛助金がちゃんと霊的益として還元されているか、執事はチェックしてみるといいですね。

III 献立のバランスの次に大事なものは、食べられるように料理しているか

1 「人々の聴く力に応じて語る」というのが御言葉の料理です。包丁やまな板に当たるのは聖書解釈の道具ですが、それをどう使っているかは、通常見ることはできないので、出てきた料理を見る以外にありません。

信徒が食べられるか＝理解できる言葉で説教しているか。伝道礼拝では求道者に理解される言葉で説教しているか。礼拝指針の「説教の心得」にあるように、福音の単純性を固く守っているか。改革派教会は聖書真理の体系的学びを重んじるので複雑な話になっていないか。全体系を貫くキリストの福音が単純明快に語られているか。

牧師は聖書解釈の作業をしている最中は、聖書語学や神学の専門用語でしているもので、聞いて分かるためには適切な言葉に置き換えなくてはなりません。置き換えられない場合は、説明しなくてはなりません。これは世の中で仕事をしている人たちは、どの専門分野でもしている作業なので、牧師もちゃんとしているかどうかチェックできるはずで

たとえば会堂建築の設計者が「建築基準に沿った礼拝堂の彩光」と言った場合、彩光とは礼拝堂に採り入れる光の量のことだと説明する必要があります。耳で聞いているだけだと、「サイコー」は通常「最高」でしょう。さらに、「彩光を量るには「けーき」が要る」と言った場合、「サイコー」が分かっていると「けーき」は「ケーキ」でしょう。分かっていたら「計器」です。

情報量が爆発的に多くなったので、専門用語の言い換えは、あらゆる分野で必要なのですが、専門用語がそのまま使われることが多くなっているように感じられます。特にパソコン用語は、もはやもう一つの言語です。だから「今さら聞けない～」という親切的な説明や動画も多くなっているようです。

2 また、冷凍食品の解凍でも、ちゃんと料理しているかが大事です。礼拝指針シリーズは4回目ですので、5年に一度くらいしていることになります。前に語ったものをパソ

コンに保存してあるわけですが、5年経てば、「今語られる神の言葉」には、教会のあゆみと共に変化があるはずで、保存してあるのを、そのまま解凍して食べさせるのでは、今生かされている神の民には栄養不足になります。

もっとも、同じ話をして初めて聴く人はいるので、大事な話は定期的に繰り返さなくてはなりません。初めて聴く人がいなければ、伝道は進展していかないわけです。また、5年前には欠席していた人もいれば眠っていた人もいるでしょうから、大事な話を繰り返す必要はいくらでもあります。

IV 長老の心得

- 1 長老の任務に「説教の結ぶ実を見守ること」というのがあります。信徒の魂に実を結んでいるかどうか、信徒の群れとしての教会に実を結んでいるか、これを見守るのが、長老の務めです。そのためには、説教の献立と料理の仕方を見守ることだけでなく、説教を聴いたあと、信徒の信仰生活に実を結んでいるか、教会生活に実を結んでいるか、これを見守る必要があります。

牧師の聖書解釈が正しいか間違っているかを判別するのは困難でしょう。しかし、大きく間違ったら分かるようになっていきます。改革派信条を「聖書真理の体系」として受け入れるという役員誓約事項は、牧師も長老も執事も同じだからです。説教の上手下手はあっても、御言葉が正しく語られているなら、「今語られる神の言葉」として聴かねばなりません。今キリストが御自分の民に語っておられる言葉として聴くならば、信徒は必ず生活で実を結ぶのです。これは、信仰と生活の方程式です。聴いたけど実を結ばない、ということはないのです。

- 2 またこれは、福音によって律法に従うという順序が要求することです。すなわち、罪人は、キリストによって救われたのち、神の掟を喜ぶように訓練されます。義認と聖化は神の子とされる点で一体なのです。信仰義認だけでは、福音主義は甘くなります。宗教改革第二世代のカルヴァンが、職業召命観と職業倫理の大切さを強調したわけを心に留めましょう。日曜日が終わったら、日毎の善きわざに向かっていくのです。罪の告白・赦しの宣言・十戒が、赦された者の感謝の生活を導くのですが、説教を聴いて行なうことでも心がけましょう。

- 3 「私はパンだけで生きているのではない、神の言葉によって生きているのだ」という思いがますます強くなって、キリストの香りを放っているなら幸いです。体は老いたり病んだりして外見はつらそうでも、魂が輝いているなら幸いです。牧師・長老・執事が信徒の顔色を見る必要がある時は、魂の顔色が健康か不健康かの判別です。

「神の言葉によって生きている」という信仰は教会生活に表れるので、教会全体としての魂の顔色もあります。教会全体がキリストの香りを放っているなら幸いです。教会全体がキリストの香りを放つためには、主の模範に倣って「聴く力に応じて」御言葉が語られているか、そしてそれが実を結んでいるか、見守ることが必要です。そうすれば、世の終わりまでいつも共にいてくださるキリストが、教会を通して御自身の香りを放ってくださいます。